

世界史 大阪大学 外国語学部 (前期) 1/3

(I)

問 1	黒海北岸に勢力を拡大していたロシアのロマノフ朝は、黒海南岸を支配していたオスマン帝国の保護国であったクリミア・ハン国を、1783年に併合してクリミア半島を領土に加えた。クリミア・ハン国の君主であったシャーヒン・ギライは、非イスラーム国家であったロシアの庇護を受けていたことなどを非難され、オスマン帝国によって処刑された。(158字)

問 2	15世紀にはモスクワ大公国が勢力を拡大し、イヴァン3世はキプチャク・ハン国の支配から自立し、イヴァン4世は東方のカザン・ハン国を滅ぼし、コサックのイエルマークを用いてシベリアに領域を広げた。17世紀になるとロマノフ朝が台頭し、皇帝のピョートル1世は、清の康熙帝とネルチンスク条約を結び、両国の国境画定と通商を約した。(156字)

世界史 大阪大学 外国語学部 (前期) 2/3

(II)

問1	エ
----	---

問2	明は民間貿易を禁じる海禁政策をとっていたため、当時の東南アジアでは、陶磁器などの中国との貿易が減少していた。(54字)

問3	16世紀末の豊臣秀吉による朝鮮出兵に際し、朝鮮半島から連行された多くの陶工によって九州各地で磁器の国産化が進んだ。ヨーロッパ商人は中国で陶磁器を買い付けていたが、明末清初の混乱や、鄭氏台湾の打倒を図る清が遷界令を発して沿岸部の住民を内陸へ移したことで中国との交易が困難になったため、代替品として日本産の磁器の輸出が増加した。(161字)

問4	ウ
----	---

世界史 大阪大学 外国語学部 (前期) 3/3

(Ⅲ)

問 1	19 世紀後半の反ユダヤ主義の高まりに対し、パレスチナにユダヤ人国家をつくるシオニズム運動が興った。第一次世界大戦中にイギリスはユダヤ人国家の建設を認めるバルフォア宣言を出す一方で、アラブ人の独立を認めるフセイン・マクマホン協定も結び、ユダヤ人とアラブ人の対立は激化した。大戦後、パレスチナはイギリスの委任統治領となり、1930 年代にはナチスの迫害を逃れたユダヤ人の移住が増加した。第二次世界大戦後、国際連合が採択したパレスチナ分割案をもとにユダヤ人がイスラエルを建国したが、これを認めないアラブ人が侵攻して、第一次中東戦争が起こった。(264 字)

問 2	1993 年にはノルウェーの仲介でパレスチナ暫定自治協定が結ばれ、翌年に暫定自治政府が発足したが、イスラエル・パレスチナ双方に和平に反対する強硬派が存在し、アメリカ合衆国がイスラエル支持を崩さないこともあって、和平は前進していない。(113 字)